

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2004年放送分](#) > 2月21日放送分 後発企業がトップシェアへ～愛知・人工歯メーカーの成長作戦～

2月21日放送分 後発企業がトップシェアへ～愛知・人工歯メーカーの成長作戦～

21日 (TX・TVO・TSC)

22日 (TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVO・OTV)

23日 (BSJ)

アクリル樹脂製のレジン人工歯で国内市場の約3割を占めているのは、愛知県の山八歯材工業株式会社(資本金2,000万円、従業員数80名)。同業他社に先駆けて行った小売業者への直接販売や教育機関との提携など、他社の追随を許さない素早い事業展開で、業界トップ企業として君臨している。まったくの素人であった創業社長が、市場への後発組という逆境にも負けず、ここまで会社を成長させることができた秘密を探る。

後発企業がトップシェアへ

～愛知・人工歯メーカーの成長作戦～

[視聴覚教材No. TV15-47](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



山八歯材工業株式会社は人工歯を作っている会社。後発企業ながら、業界トップシェアを誇るまでに成長した秘密を志垣さんが探る。

歯は歯医者さんに聞くのが一番。酒井先生は同社の製品は自然感、耐久性があり、その上リーズナブルと評価。





こちらが、山八歯材工業株式会社の遠山社長。後発企業の苦勞はどうやって市場に流通させるかだと語る。

遠山社長がとった作戦は小売店への直接販売。それが効を奏し、低価格化を実現した。

POINT: 小売店との直接取引によって市場開拓と低価格化を実現



また、手作業が中心となる人工歯の製造拠点をいち早く中国に移設。さらなる低価格化を可能にすると共に、巨大な中国市場を視野に入れて事業を展開。

POINT: 安い労働力だけではなく販売市場としても開拓



ここは使用者の噛み癖に合わせて変化する人工歯の開発で同社に協力した愛知学院歯学部。また、金属の開発については、他の大学と共同で進めているという。同社では産学連携が盛ん。



人工歯に使う金属開発に協力しているのは豊橋技術科学大学。素材を大学が開発



して、同社が試作品を作るという二人三脚で作業を行っている。

「大学で開発した新素材、新技術を新製品に生かせば先発企業にも対抗できる」と語る豊橋技術大学の新家教授。そして、遠山社長は「限られた資源、人材の中小企業は最先端の技術を持つ大学の協力が必要」と語った。

POINT: 独自技術を身につけ製品力で先発企業に対抗する



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN